

第2回東京都北区資源循環推進審議会 議事要旨

日時：平成24年8月24日（金） 9:30～

場所：株式会社トベ商事（足立区）

出席者：

委員	山谷委員、上遠野委員、松波委員、渡辺委員、古田委員、宇都宮委員、赤江委員、五十嵐委員、大久保委員、増橋委員、堀江委員、竹腰委員、牧元委員、齋藤委員、山口委員、尾花委員、鰐淵委員、斉藤委員
北区側出席者	根本リサイクル清掃課長

〔次第〕

1. トベ商事のリサイクル事業の取り組みについて
2. その他

〔議事要旨〕

1. トベ商事のリサイクル事業の取り組みについて

施設の視察

- ・トベ商事の事業内容等についてご説明頂き、そのビデオ鑑賞を行った。
- ・実際に作業を行っている内容（リターナブルびんの洗浄、缶の選別、廃プラスチックの選別など）について、状況を説明して頂きながら視察を行った。

○質疑応答

〔委員〕自治体によっては、資源回収の実態に格差があると思うが、事業者としてどういった改善がされればリサイクル率の向上につながると考えているか。

〔トベ商事〕分別回収が23区で始まって約20年になる。当初は分別状況が良かったが、最近ではあまり守られていない。確かに区によってごみの出し方に違いはある。繁華街を抱えている区は分別が徹底されていないため回収が大変だが、できる限り回収するようにしている。

〔委員〕回収する立場として、処理しやすい資源の出し方等はあるか。

〔トベ商事〕手作業で行っている部分もあるが特別な出し方というものはなく、区の広報等でお知らせしている出し方を守っていただきたい。

〔委員〕サーマルリサイクルについてどのようにお考えですか。

〔トベ商事〕サーマルリサイクルの方がコスト的に安いことは認識している。環境を重視するとしても区の予算等経費の問題がある。

〔委員〕いわゆる「都市鉱山」の価値についてはどのようにお考えですか。

〔トベ商事〕不燃物の約60%は瀬戸物であり砂化するしかない。それ以外の内の約25%が小型家電となっている。小型家電から抽出した資源は売却可能であるが、売れる状態にするまでに結構な経費がか

かる。小型家電を資源回収事業として進めるためには、資源の相場など経済状況の見極めが必要である。

〔委員〕 廃プラスチックの回収選別において、その他のごみの混入率は高くなっていますか。また、残さが出ると思うがそれはどのようにしているのか。

〔トベ商事〕 廃プラスチックを選別して 15、16%の残さが出るが、その内の半分がびんや缶などの資源類である。その他の半分がいわゆる残さであるが、これは区に返却している。

2. その他

○追加資料「区民一人当たりのごみ量とごみの減量率について」

- ・第1回審議会でご指摘のあった「区民一人当たりのごみ量」について事務局から説明した。
- ・事業系を含めているが「区民一人当たりのごみ量」の減量率は 3.16%と 23 区の内、最も低くなっている。

〔当日の様子〕



(12:00 終了)